

平成21年10月22日

日本原燃(株)再処理施設高レベル廃液ガラス固化建屋における 固化セル内の漏えいについて

原子力安全・保安院は、本日(平成21年10月22日)、日本原燃(株)から、再処理施設高レベル廃液ガラス固化建屋における固化セル¹内の漏えいについて、以下のとおり報告を受けた。

1. 日本原燃(株)からの報告内容

本日1時55分頃、高レベル廃液ガラス固化建屋固化セル内の洗浄作業の準備中に、閉止フランジ²下に設置しているトレイを点検したところ、トレイ内に液だまりがあることを発見した。その後、8時10分、液だまりの発生部位を画像により調査したところ、洗浄作業の準備に使用していたクレーンのチェーンが閉止フランジ部に接触し、漏えいしたことを確認した。

現在、漏えい液の性状について調査している。

なお、本事象による周辺環境への影響はなく、作業者の被ばくもない。

1: 固化セル

ガラス固化設備を収納した、放射性物質等を閉じこめる機能を有する施設。

2: フランジ

配管の接続部。

2. 原子力安全・保安院の対応

本事象は、管理区域外へ漏えいしたものではありませんが、固化セル内に設置された機器からの漏えいが確認されたことから、法令に基づく報告があったものです。

事象発生後、現地保安検査官を派遣し、閉止フランジ部から液体の滴下が止まっている模様であること、固化建屋内の線量に上昇のないこと、敷地境界周辺のモニタリングポスト等の指示値に異常がないことを確認しています。

原子力安全・保安院としては、今後、事業者が行う原因究明及び再発防止策について、報告を受け、厳格に確認していきます。

(INES による暫定評価)

基準 1	基準 2	基準 3	評価レベル
-	-	0	0

INES (International Nuclear Event Scale: 国際原子力事象評価尺度)とは、原子力発電所等のトラブルについて、それが安全上どの程度のものかを表す指標。評価は3つの基準(基準1:所外への影響、基準2:所内への影響、基準3:深層防護の劣化)により行われ、最も高いレベルがそのトラブルの評価レベルとなる。評価レベルは、レベル0(安全上重要ではない事象)からレベル7(深刻な事故)までである。

【問い合わせ先】

原子力安全・保安院

原子力防災課原子力事故故障対策室 田村、忠内

電話: 03 - 3501 - 1511(内)4911

03 - 3501 - 1637

固化セルパワーマニピュレータ

